

| 1-1 建物概要 | | 1-2 外観 | |
|----------|-----------------------|--------|-------------|
| 建物名称 | 相模原センター | 階数 | 地上4F |
| 建設地 | 相模原市当麻宿土地区画整理事業地内2街区 | 構造 | RC造 |
| 用途地域 | 工業地域 | 平均居住人員 | 260 人 |
| 気候区分 | | 年間使用時間 | 3,700 時間/年 |
| 建物用途 | 事務所, 工場, | 評価の段階 | 実施設計段階評価 |
| 竣工年 | 2015年2月 予定 | 評価の実施日 | 2014年10月8日 |
| 敷地面積 | 24,026 m ² | 作成者 | 松尾建設株式会社 |
| 建築面積 | 7,832 m ² | 確認日 | 2014年10月17日 |
| 延床面積 | 27,557 m ² | 確認者 | 松尾建設株式会社 |



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.9 ★★☆☆☆☆

S: A: B+: B-: C:

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものであり(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.8

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

| 3 設計上の配慮事項 | |
|--|--|
| 総合 免震構造を採用し、建物の永続性を高めると共に、建物用途である倉庫としての荷崩れを防ぎ作業員の安全にも配慮している。 | その他 建設工事に際し、プレキャスト工法の採用により、現場でのコンクリート型枠を減らし、工場で再利用可能な型枠で予めPC部材を生産することにより資源の有効活用を図る |
| Q1 室内環境 1~3階の倉庫内は空調は行わないため、換気を効率的に行うよう給気口と排気口を対照的に同一方向から行うように配慮する。また照明をLEDにし熱負荷抑制に配慮する | Q2 サービス性能 高い階高とすることで、将来的に自動搬送機の導入や、高さのある物流ラックの採用等が出来るようフレキシブルに利用できるように配慮した。 |
| LR1 エネルギー 高効率機器「LED照明設備」を採用しエネルギーの抑制を計る。 | LR2 資源・マテリアル 再生建材の積極的採用を行う |
| | Q3 室外環境(敷地内) 外周部に桜を植え景観に配慮する |
| | LR3 敷地外環境 敷地内に雨水浸透層を設け敷地外への雨水の流失に配慮している。 |

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される